

令和7年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前：太田 旭紀

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。

(1, 000字程度)

私は今回、高松市青少年訪問団の一員として、中国の南昌市と景德鎮市を訪問しました。今回の訪問は私にとって初めての海外で、未知の世界に行くことへのわくわくした気持ちと同時に、不安も多く感じていました。しかし、現地の街並みや文化、人々との交流を体験することで、その不安は少しずつ楽しさに変わっていきました。

まず南昌市では、高松・南昌友好会館を訪れました。友好会館では、高松市と南昌市の長く続く交流について学ぶことができました。そこで、日本語教室に通っている方達と交流し、「放課後は何をして遊びますか」「冬にミニスカートで寒くないの」といった質問をしてくれました。一つ一つ答えていく中で、とても真剣に聞いてくれる姿に、こんなにも日本に興味があるのかと嬉しくなりました。日本語を一生懸命使おうとする姿勢に感心し、自分も中国語や英語の学習にもっと前向きに取り組みたいですと思いました。また南昌には、たくさん的高層ビルがあり、中国の目覚ましい発展を感じることができました。

次に景德鎮市に訪れました。景德鎮市は世界的な陶磁器の生産地であり、幾つもの博物館を訪問しました。

その中でも景德鎮芸術職業大学でろくろ体験をしたことが印象に残っています。実際は、全然うまくいかず、粘土は思うように形にならず崩れてばかりでした。しかし、自分の手で粘土を回してみる体験はとても面白く、失敗しながらも少しずつ形になっていく様は、とても楽しかったです。また、職人さんの技術の素晴らしさを間近で見て、長い歴史の中で受け継がれてきた技術の奥深さを改めて感じました。

そして、現地で食べた中華料理もとても印象に残っています。香辛料が効いた本格的な味付けで、日本ではなかなか食べられない料理もあり、とても美味しかったです。

今回の訪問を通して、私は「自分の目で見て、体験して、交流すること」の大切さを学びました。最初は不安もありましたが、現地の人々の温かさや文化に触れることで、その経験はかけがえのない思い出になりました。これからはこの経験を生かして、もっと広い視野で物事を考え、将来につなげていきたいです。

最後に、このような貴重な機会をくださった関係者の皆さま、そして温かく迎えてくださった南昌市・景德鎮市の皆さまに心から感謝いたします。本当に充実した6日間になりました。ありがとうございました。

